科　目　名	看護学概論	単位数	1	時 間 数	30
担 当 教 員	専任教員	実務経験	有	履修年次	1 年
科目の概要	看護の対象である人間とはどのような存在か。健康とはどのような状態なのか。人々の生活を見る視点や法律や理論家によって定義されている看護の役割を学ぶ。また、連携が必要である。多職種の役割を知り、協働の中で看護に求められる役割を理解する。				
学 習 目 標	1. 看護の概念がわかる 2. 看護の役割がわかる 3. 大切な人の看護を考えることができる 4. 看護師として求められる倫理的態度について考えることができる 5. 多職種の中での看護の役割がわかる				

授 業 計 画	学習内容	授業方法	時間	担当
	1. 看護の概念がわかる 1）看護の歴史 2）看護の概念枠組み（1）人間とは （2）環境とは （3）健康とは	レポート 「私の考える看護とは」 個人ワーク グループワーク 講義	2H 3H 3H	専任教員
	2. 看護の役割がわかる （4）看護とは	講義・レポート 個人ワーク グループワーク	2H 3H	
	3.大切な人の看護を考えることができる 1）大切な人の生活を知る 2）大切な人の健康観を知る 3）大切な人の健康を維持・増進するための提案を考える	講義 個人ワーク グループワーク 発表・まとめ	1H 3H 1H 2H	
	4. 看護師として求められる倫理的態度について考えることができる	個人ワーク グループワーク 講義・まとめ	1H 1H 1H	
	5. 多職種の中での看護の役割がわかる	個人ワーク グループワーク 講義・まとめ	1H 1H 2H	
評 価 方 法	TBL　10 点 筆記試験　90 点		2H 1H	
テ キ ス ト	・統計看護学講座 専門分野 看護学概論[1]基礎看護学(医学書院) ・よくわかる看護者の倫理綱領(照林社)・看護師のための文書ノート 井部俊子(日本看護協会出版会) ・看護の基本となるもの　ヴァージニアヘンダーソン著　(日本看護協会出版会)			
参 考 文 献				

科　目　名	安全・コミュニケーションの看護方法論	単位数	1	時 間 数	30
担 当 教 員	専任教員	実務経験	有	履修年次	1 年
科目の概要	看護技術の基礎である技術のうち看護活動に共通する技術(安全守る技術、人間関係を成立させる技術、学習支援、記録・報告)について学習する。				
学 習 目 標	1. コミュニケーションの概念が分かり、看護におけるコミュニケーションについて学ぶ 2. 看護における記録・報告の目的・方法がわかる 3. 看護上の事故防止について考えることができる 4. 感染防御のための技術を身につけることができる 5. 日常生活における学習支援の基本がわかる				

	学習内容	授業方法	時間	担当
授 業 計 画	1.コミュニケーションの技術	講義	3H	専任教員
	2.コミュニケーションの構成要素と成立過程	講義	2H	
	3.関係性構築のためのコミュニケーションの基本 4.効果的なコミュニケーションの実際	講義 視聴覚教材	4H	
	5.コミュニケーション障害への対応 6.看護場面におけるコミュニケーション	講義 視聴覚教材	3H	
	7.記録・報告 1）記録の目的・種類・方法 2）報告の目的・種類・方法	講義	2H	
	8.安全を守る技術 1）看護における安全とは 2）リスクマネージメントとは 3）ヒューマンエラー 4）看護上の事故防止について	講義	2H	
	9.感染防御に必要な基礎知識	講義	3H	
	1）進入経路の遮断 （1）隔離法とガウンテクニック （2）手洗い	講義・演習	3H	
	2）感染防御技術 （1）無菌操作（鑷子、ガーゼ、手袋）	講義・演習	2H	
	10.学習支援 1)看護の教育機能 2)学習支援の基本 3)学習支援の対象と領域 4)学習支援の進め方	講義 グループワーク プレゼンテーション	3H 2H	
評 価 方 法	筆記試験（100 点）		1H	

テ キ ス ト	系統看護学講座　専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ(医学書院) 系統看護学講座　専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ(医学書院)
参 考 文 献	川村 治子著　『医療安全ワークブック』　（医学書院） E．ウィーディンバック著　『コミュニケーション』　（日本看護協会出版会） M．シェネバート著　『ナースのためのアサーティブトレーニング』　（医学書院） 吉田 哲著　『人を知る私を知る』　看護の科学者

科　目　名	環境・活動と休息の看護方法論	単位数	1	時 間 数	30
担 当 教 員	専任教員	実務経験	有	履修年次	1 年
科目の概要	対象の生活を整える技術を学ぶ科目である。対象の生活を整える技術のうち診療の補助技術を含まない環境を整える技術、活動と休息を助ける技術を学ぶ。				
学 習 目 標	1. 日常生活援助技術の概要が分かる 2. 療養環境の構成要素が分かり、模擬患者の病床の整備ができる 3. 活動と休息の意義が分かり、活動と休息の援助方法がわかる 4. 模擬患者を安楽な体位に整えること、車椅子とストレッチャーを使って移動することができる				

授 業 計 画	学習内容	授業方法	時間	担当
	1.日常生活援助技術とは 1） 日常生活援助技術とは 2） 日常生活援助技術における安全	講義	1H	専任教員
	2.療養環境 1） 療養環境を構成する要素 (1)物理・化学的環境 (2)人的環境 2） 快適な生活環境の条件 3)ベッドメーキング (1)シーツのたたみ方 (2)オープンベッド (3)作り直しのベッド (4)臥床患者のシーツ交換 4)基本的な病床の整備	講義 演習 視聴覚教材	12H	
	ベッドメーキング実技試験	試験	2H	
	3.活動と休息 1） 活動について 2） 休息について 3） 活動と休息への援助　（体位変換） 4） 移動の方法（移乗・移送） (1)車椅子　(2)ストレッチャー、ベッド搬送	講義 演習 視聴覚教材	12H	
	レポートテーマ 「移動の援助者・患者体験して得た気づき」	レポート※	1H	
	4.苦痛の緩和・安楽確保の技術 1） 安楽な体位（体位保持）	講義 演習	1H	
	筆記試験	試験	1H	

評 価 方 法	・筆記試験（90 点）＋レポート※（10 点）＝100 点 ・実技試験（ベッドメーキング）
テ キ ス ト	・系統看護学講座　専門分野　基礎看護学[2]　基礎看護技術Ⅰ（医学書院） ・系統看護学講座　専門分野　基礎看護学[3]　基礎看護技術Ⅱ（医学書院）
参 考 文 献	・岡崎美智子著　『看護技術～その手順と根拠』　メヂカルフレンド社 ・岡庭豊（発行者）『看護技術がみえる①』メディックメディア

科　目　名	清潔の看護方法論	単位数	1	時 間 数	30
担 当 教 員	専任教員	実務経験	有	履修年次	1 年
科目の概要	対象の生活を整える技術を学ぶ科目である。対象の生活を整える技術のうち診療の補助技術を含まない身体の清潔の援助技術、衣生活での援助技術を学ぶ。				
学 習 目 標	1. 清潔の意義が分かり、清潔の援助方法がわかる 1)模擬患者の全身清拭と洗髪ができる 2) 入浴・シャワー浴・陰部・口腔・手足の清潔援助の方法がわかる 3) 整容の援助の方法がわかる 2. 衣生活の意義が分かり、模擬患者の寝衣交換ができる				

授 業 計 画	学習内容	授業方法	時間	担当
	1.清潔 1) 清拭の目的、方法 2) 臥床患者の全身清拭の援助方法	講義 演習 技術チェック	2H 3H 4H	専任教員
	3) 洗髪の目的・適応	講義	2H	
	4) ケリーパットを使用した洗髪の援助方法	演習 技術チェック	3H 4H	
	5) 入浴、シャワー浴の目的と方法 陰部洗浄の目的と方法	講義 グループワーク	1H	
	6) 手浴・足浴の目的と方法 7) 整容	演習 グループワーク	5H	
	2.衣生活 1)衣服の意義 2)病衣の条件 3)衣服の着脱を助ける援助方法 (1)患者の寝衣交換	講義 演習 技術チェック	5H	
評 価 方 法	筆記試験（100 点）　清潔・清拭他　：60 点 洗髪　：15 点 衣生活　：15 点 演習レポート　：10 点 技術チェック　清拭・洗髪・寝衣交換		1H	
テ キ ス ト	系統看護学講座　専門分野 基礎看護学[3]　基礎看護技術Ⅱ　（医学書院）			
参 考 文 献	看護技術がみえる１　メディクメディア			

科　目　名	食生活の看護方法論	単位数	1	時 間 数	30
担 当 教 員、	専任教員	実務経験	有	履修年次	1 年
科 目 の 概 要	対象の生活を整える技術のうち、診療の補助技術も含む「食」について学ぶ科目である。対象者が健康的かつ安全で快適な食行動がとれるよう、栄養状態、摂取能力、食欲、食に関する認識・行動についてアセスメントする必要がある。また、治療上望ましい食習慣の獲得に向けて援助していく方法を学ぶ。				
学 習 目 標	1. 食生活の意義を理解し、援助方法を習得できる				

授 業 計 画	学習内容	授業方法	時間	担当
	1. 食事援助の基礎知識 ①栄養状態および摂食能力、食欲や食に対する認識のアセスメント ②医療施設で提供される食事の種類と形態	講義 ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ 事例検討	4H	専任教員
	2、食事摂取の介助 ①援助の基礎知識 ②援助の実際	講義 ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ 演習 視聴覚教材	7H	
	3、摂食・嚥下訓練 ①援助の基礎知識 ②援助の実際	講義 事例検討	3H	
	４、非経口的栄養摂取の実際 ①経管栄養法 ②中心静脈栄養法	講義 演習 視聴覚教材	9H	
	5、食事指導法	講義 ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ 事例検討 ﾛｰﾙﾌﾟﾚｲﾝｸﾞ	5H	
	筆記試験	終講試験	1H	
	振り返り		1H	
評 価 方 法	筆記試験　100 点		1H	
テ キ ス ト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ　(医学書院)			
参 考 文 献	厚生労働省：日本人の食事摂取基準 看護が見える　基礎看護技術 vol. Ⅰ ナーシングチャンネル			

科　目　名	排泄の看護方法論	単位数	1	時 間 数	30
担 当 教 員	専任教員	実務経験	有	履修年次	1 年
科目の概要	この科目は、対象者の生活を整える技術のうち、対象者の状態をアセスメントし、排泄の自立に向けての援助を学ぶ。また、診療の補助技術である導尿や浣腸においては、安全の意義と法的責任の内容を教授し、正しい知識のもと、根拠に基づいた技術を提供できるように学習する。排泄の意義、排尿・排便のメカニズムなどの基礎知識を確認し、自然排泄ができるような援助技術、自然排泄ができない場合の援助技術についても教授していく。				
学 習 目 標	1. 排泄の意義を理解し、援助方法を習得できる				

授 業 計 画	学習内容	授業方法	時間	担当
	1. 排尿・排便のメカニズム 2. 排泄に関するアセスメントとは	講義	2H	専任教員
	3. 排泄の観察の視点 4. 排泄習慣の確立のための援助 5. 環境調整	講義	2H	
	6. 排尿・排便の介助 1)排泄器具・設備　2)トイレでの排泄介助	講義 視聴覚教材	2H	
	3)ポータブルトイレでの排泄介助	演習	2H	
	4)便器・尿器のあて方	演習	2H	
	5)オムツのあて方・陰部の保清	演習	3H	
	7. 排泄障害を持つ患者への援助 1)診察の補助技術としての処置 2)主な排尿障害の種類と要因 3)排尿を助ける援助方法	講義 視聴覚教材	3H	
	(1)導尿または膀胱留置カテーテルの挿入	演習	2H	
	(2)膀胱留置カテーテルの管理	演習	3H	
	4)主な排便障害の種類と要因 5)排便を助ける援助方法	講義 視聴覚教材	3H	
	(1)浣腸	演習	2H	
	(2)摘便	演習	2H	
	8. 排泄の意義	講義	1H	
評 価 方 法	筆記試験　100 点		1H	

テ キ ス ト	･系統看護学講座 専門分野　基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ　（医学書院） ・系統看護学講座 専門基礎分野　　人体の構造と機能[1] 解剖生理学　（医学書院） ･系統看護学講座 専門分野　老年看護学　（医学書院）
参 考 文 献	岡庭豊(発行者)『看護技術がみえる①』（メディックメディア） ナーシングチャンネル

科　目　名	フィジカルアセスメントの看護方法論	単位数	1	時 間 数	30
担 当 教 員	専任教員	実務経験	有	履修年次	1 年
科目の概要	対象の身体状況を把握するための技術を学ぶ科目である。フィジカルアセスメントの意義と概要を理解し、生命活動の指標となる値の示す意味をまなぶ。				
学 習 目 標	1.　ヘルスアセスメントの概要がわかる。 2.　呼吸、脈拍、血圧、体温の測定ができ、測定結果の意味することがわかる 3.　循環器系のフィジカルアセスメントについてわかる 4.　呼吸器系のフィジカルアセスメントについてわかり、正常呼吸音が聴診できる 5.　腹部のフィジカルアセスメントについてわかり、腸蠕動音が聴診できる 6.　骨筋系・神経系のフィジカルアセスメントについてわかる 7.　基本的な身体計測の方法がわかる 8.　罨法の目的と方法がわかり、適切に罨法が準備・施行できる				

授 業 計 画	学習内容	授業方法	時間	担当
	1.　ヘルスアセスメントの概要 1）ヘルスアセスメントとは 2）フィジカルアセスメントに必要な技術	講義 視聴覚教材	2H	専任教員
	2.　バイタルサインの観察とアセスメント 1）体温 (1)熱の生産と放散　(2)正常体温と生理的変動 (3)体温の異常　(4)体温の測定方法	講義 視聴覚教材	2H	
	2)循環 (1)脈拍の正常と異常　(2)血圧の正常と異常 (3)脈拍測定の部位と方法 (4)血圧のメカニズム、測定方法	講義 視聴覚教材	3H	
	3)血圧測定 (1)血圧測定の部位と方法 (2) アネロイド血圧計、電子血圧計	講義 視聴覚教材 演習	6H	
	4)呼吸 (1)呼吸の仕組み　(2)呼吸の正常と異常 (3)呼吸の測定方法 3.　呼吸器系・循環器系のアセスメント 1)呼吸・循環の観察 2)胸部の視診、聴診、打診、触診	講義 視聴覚教材 演習	3H	
	4.　腹部のアセスメント 1)腹部の視診、触診、聴診、打診 5.　意識状態のアセスメントと評価方法 6.　筋・骨格系のアセスメント 7.　神経系のアセスメント 8.　身長・体重・腹囲の意義と測定方法 9.　呼吸音・腸蠕動音の聴診部位と聴診	講義 視聴覚教材 演習	6H	
	10. 罨法 1）罨法の目的と種類、方法　2）禁忌・留意点	講義　演習 視聴覚教材	3H	
	11. 実技試験オリエンテーション		1H	
評 価 方 法	筆記試験（100 点） 実技試験		1H 3H	
テ キ ス ト	系統看護学講座　専門分野 基礎看護学[2][3] 基礎看護技術ⅠⅡ　（医学書院）			
参考文献	看護がみえる③　フィジカルアセスメント（メディックメディア）			

<table>
<tr><td>科　目　名</td><td colspan="2">与薬の看護方法論</td><td>単位数</td><td>1</td><td>時 間 数</td><td>30</td></tr>
<tr><td>担 当 教 員</td><td colspan="2">専任教員</td><td>実務経験</td><td>有</td><td>履修年次</td><td>2 年</td></tr>
<tr><td>科目の概要</td><td colspan="6">　疾病の診断や治療については医師が中心的な役割を担当するが、看護師は健康に問題のある人々への援助の方法として、医師の行う診療や治療行為の介助をするとともに、その指示や了解のもとに検査や治療に携わる。ここでは与薬の知識と技術を理解する。</td></tr>
<tr><td>学 習 目 標</td><td colspan="6">1. 診療・検査における看護師の役割がわかる
2. 薬物療法が理解できる。
3. 与薬の技術がわかる。
4. 注射法の基礎技術がわかる
5. 薬剤の管理がわかる
6. 輸血の管理がわかる</td></tr>
<tr><td rowspan="5">授 業 計 画</td><td colspan="2">学習内容</td><td colspan="2">授業方法</td><td>時間</td><td>担当</td></tr>
<tr><td colspan="2">1. 診療・検査における看護師の役割がわかる
2. 薬物療法が理解できる。
　1）薬物療法の意義　与薬の基礎知識　与薬の方法</td><td colspan="2">講義
視聴覚教材</td><td>1H</td><td>専任
教員</td></tr>
<tr><td colspan="2">3. 与薬の技術がわかる
　1）内服薬の投与
　2）経皮・外用薬の投与</td><td colspan="2" rowspan="3">演習
講義
視聴覚教材</td><td>5H</td><td>専任
教員</td></tr>
<tr><td colspan="2">4. 注射法の基礎技術がわかる
　1）皮下注射
　2）筋肉内注射
　3）点滴静脈内注射
　　静脈確保・点滴静脈内注射と管理</td><td>5H
5H
9H</td><td>専任
教員</td></tr>
<tr><td colspan="2">5. 薬剤の管理がわかる
　1）毒薬・劇薬・麻薬・血液製剤・抗がん剤の管理
6. 輸血の管理がわかる</td><td>2H
2H</td><td>専任
教員</td></tr>
<tr><td>評 価 方 法</td><td colspan="4">筆記試験</td><td>1H</td><td></td></tr>
<tr><td>テ キ ス ト</td><td colspan="6">系統看護学講座　専門分野　基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ　（医学書院）</td></tr>
<tr><td>参 考 文 献</td><td colspan="6">技術がみえる　（メディカ出版）</td></tr>
</table>

科　目　名	検査・一次救命の看護方法論	単位数	1	履修年次	30
担当教員	専任教員、病院看護師、病院臨床工学技士	実務経験	有	履修年次	2年
科目の概要	疾病の診断や治療については医師が中心的な役割を担当するが、看護師は健康に問題のある人々への援助の方法として、医師の行う診療や治療行為の介助をするとともに、その指示や了解のもとに検査や治療に携わる。ここでは、医療安全の視点から、検査や治療に伴う技術を学ぶ。				
学習目標	1. 診療・検査における看護師の役割がわかる 2. 検体検査・生体検査が理解できる。 3. 救急状況における患者の看護が分かり、一時救命法が取得できる。 4. 創傷処置の基本がわかる。 5. 医療機器の取り扱いがわかる。 6. 医療安全の視点から患者の安全確保ができる。				

授業計画	学習内容	授業方法	時間	担当
	1.　症状・生体機能管理技術 1）検査基礎知識 2）検体検査・生体検査 3）正確な検査を行うための患者の援助 4）薬剤・放射線暴露防止	講義 ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ	8H	専任教員
	2. 検体検査と検体の取り扱い 1）検体の取り扱い（血液、尿など） 2）針刺し事故防止・対応 3）感染性廃棄物の取り扱い 4）静脈血採血	講義 3H	7H	
	上記1）～4）の演習（静脈血採血を主にその他演習をおこなう）	演習 4H		
	3. 救命救急処置技術 1）緊急時の応援要請 2）BLS 3）止血法	講義 2H	6H	病院看護師
	上記1）～3）の演習	演習 4H		
	4.創傷管理技術 1）創傷処置（創洗浄・創保護・包帯法・ドレーン類の挿入部の処置）の基本的知識	講義 2H	5H	専任教員
	包帯法、創保護の演習	演習 3H		
	5.医療機器の取り扱い 1）人工呼吸器、心電図モニター、輸液ポンプ、シリンジポンプなど	講義 演習	3H	病院臨床工学技士
評価方法	筆記試験		1H	
テキスト	・系統看護学講座　専門分野　基礎看護学[2]　基礎看護技術Ⅰ　（医学書院） ・系統看護学講座　専門分野　基礎看護学[3]　基礎看護技術Ⅱ　（医学書院）			
参考文献				

科　目　名	看護過程	単位数	1	時 間 数	30
担 当 教 員	専任教員	実務経験	有	履修年次	1 年
科目の概要	看護過程とは、対象の健康問題を看護の立場から系統的に判断し、解決するために計画を立てて援助を実践し評価する過程をいう。看護実践に必要な看護過程の方法についての理論と実際を理解し、個々の対象者に適応できる問題解決能力・思考能力の基礎を身につける。				
学 習 目 標	1. 看護過程の概要がわかる 2. 看護の展開方法がわかる 3. 事例の対象の看護が展開できる				

授 業 計 画	学習内容	授業方法	時間	担当
	1. 看護過程の概要 2. 看護の展開方法 1）アセスメント過程 ①病像の情報分類	視聴覚教材 課題 講義 演習	2H	専任教員
	②病像の解釈・分析・まとめ		2H	
	③生活像の解釈・分析・まとめ		2H	
	④社会像の解釈・分析・まとめ		2H	
	⑤関連図・全体像		2H	
	2）計画・立案の過程 ①目標　②問題点　③具体策		2H	
	3）実施の過程 4）評価の過程		2H	
	3. 事例の対象の看護の展開 1)看護を展開するための必要な知識の確認	TBL まとめ	2H	
	4.事例患者の立案看護計画の立案 5.具体策の実施 6.実施・評価・修正・まとめ、リフレクション	個人ワーク グループワーク 演習 個人ワーク グループワーク まとめ	4H 4H 2H 1H 1H 1H	
評 価 方 法	TBL　(20 点) 個人の看護計画（10 点）・実施～リフレクション（10 点） グループの看護計画（10 点） 筆記試験　(50 点)		1H	

テ キ ス ト	当校の看護過程の小冊子
参 考 文 献	看護過程が見える　メディックメディア 病気が見える　脳神経　メディックメディア 基礎看護技術Ⅰ　医学書院

科　目　名	臨床看護総論	単位数	1	時 間 数	30
担 当 教 員	専任教員	実務経験	有	履修年次	1 年
科目の概要	初めて患者を受け持って日常生活援助を実践する基礎看護学実習Ⅱにつなげるための科目である。これまで学んだことを統合して実習で使えるようにするための科目である。事例課題に対し、模擬患者に援助を実施できることを目指す。				
学 習 目 標	1. 事例に必要なフィジカルイグザムの項目があげられる 2. フィジカルイグザムを正しく実践できる 3. フィジカルイグザムに必要なコミュニケーション技術を実践できる 4. フィジカルアセスメントができる 5. 必要な援助を実践できる 6. 自己の技術を振り返ることができる				

授 業 計 画	学習内容	授業方法	時間	担当
	1. オリエンテーション 2. 練習事例のアセスメント	個人学習 グループ学習	1H 2H 1H	専任教員
	3. 練習事例の展開 1)教員によるデモンストレーションと解説 2)振り返り	デモンストレーション・解説 個人学習 グループ学習	1H 1H 1H	
	4. 演習事例のアセスメント	個人学習 グループ学習	3H 3H	
	5. 演習事例の展開	グループ練習 個人練習 評価演習	2H 3H 3H	
	6.アセスメント・結果・考察・振り返り	個人学習 グループ学習 まとめ レポート まとめ	2H 3H 1H 2H 1H	

評 価 方 法	評価演習場面　50 点 レポート　　50 点		
テ キ ス ト	統計看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ　(医学書院)		
参 考 文 献			

科　目　名	地域と人々の暮らし	単位数	1	時 間 数	15
講　師　名	専任教員	実務経験	有	履修年次	1 年
科 目 概 要	地域包括ケアシステムにおいては、疾患や障がい（害）があっても、住み慣れた地域でその人らしく暮らす支援が求められている。本科目においては、個人・家族が「地域で暮らす」とはどのようなことなのか。人々の「暮らし」とその基盤となる「地域」について理解する。本科目の目的は、個人・家族の暮らしの多様性や生活環境、地域の理解を深め、その人らしい暮らしに関わる支援を考える力を身につけることである。				
学 習 目 標	1. 地域における個人・家族の生活、暮らしを理解する。 2. 身近な地域の特性を説明できる。 3. 地域、環境が人々の暮らしに及ぼす影響がわかる 4. グループワークやプレゼンテーションを理解し理解を深める				

授 業 計 画	学習内容	授業方法	時間	担当
	1.「生活」、「暮らし」とは ヴァージニア・ヘンダーソン：基本的ニード論 生活状況の構造 価値観、健康観、暮らしと健康の関係とは 2. 暮らしと地域 地域とは　地域の特性 システムとしての地域 社会資源とは フォーマル、インフォーマルサービスとは 3. 家族について 家族の定義 家族システム論	講義 個人ワーク	2H	専任教員
	4. 地域の特性 地勢・人口動態・歴史・文化・習慣・気質 政治（まちづくりの取り組みなど）・経済 安全・交通・教育・レクリエーション・公園 保健医療福祉サービス・健康問題など	事前自己学習 ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ	5H	
	地域特性の発表会、まとめ	発表会	3H	
	5. 地域と人々の暮らしの相互作用について実習の学びをもとにグループごとにまとめて発表する	ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ	2H	
	6. まとめ	発表会	2H	
評 価 方 法	筆記試験（1H　60 点） プレゼンテーション(10 点)、グループワーク(10 点)、 個人レポート（20 点）　合計 100 点		1H	
テ キ ス ト	ナーシング･グラフィカ 地域・在宅看護論①　地域療養を支えるケア（メディカ出版）			
参 考 文 献	基礎からわかる地域・在宅看護論　（照林社）			

科　目　名	地域・在宅看護論概論	単位数	1	時 間 数	30
講　師　名	専任教員	実務経験	有	履修年次	2 年

科目の概要	地域における在宅看護の意義や在宅看護の概念、わが国と諸外国の在宅看護の変遷と現状を理解し、今後の課題と展望がわかる。療養者と家族が社会資源を活用し、在宅での生活が継続できるために必要な知識を学ぶ。保健・医療・福祉の関係職種と協働すること、チームにおける看護の役割がわかる。訪問時の基本的マナーについても学ぶ。
学 習 目 標	1. 地域における在宅看護の必要性と意義を理解する 2. 在宅看護の歴史的変遷を理解する 3. 療養者の権利擁護と倫理を理解する 4. 在宅看護の対象がわかる 5. 地域ケアシステムを理解し在宅看護の役割がわかる 6. 在宅看護の今後の課題がわかる

授 業 計 画	学習内容	授業方法	時間	担当
	1. 地域における在宅看護の意義と必要性 1）生活、暮らしとは 2）地域・在宅看護の背景	講義 視聴覚教材 ワーク 講義 演習 グループワーク ﾛｰﾙﾌﾟﾚｲ	1H	専任教員
	2. 在宅看護の変遷と現状及び諸外国における在宅看護		1H	
	3. 在宅療養者の権利保障 1）在宅療養者の権利擁護と倫理		2H	
	4. 在宅看護の対象 1）在宅療養を必要とする人たち 2）療養者を介護する家族と家族支援		2H	
	5. 在宅療養を支える看護 1）在宅看護の目的と機能 2）在宅療養成立の条件		1H	
	6. 訪問看護の特徴 1）訪問看護とは 2）制度による訪問看護活動 3）在宅ケアを支える訪問看護		2H	
	7. 在宅看護の方法 1）看護過程　2）フィジカルアセスメント 3）家庭訪問・初回訪問　4）訪問看護の記録 5）訪問看護の基本的マナー		2H 9H	
	8. 在宅ケアの連携とマネジメント 1)継続看護と退院支援　2）ケアマネジメントと看護 3)関係職種との連携協働 4）地域包括ケアシステム		3H	
	9. 在宅ケアを支える制度と社会資源		3H	
	10. 在宅看護の今後の動向と課題		3H	
評 価 方 法	筆記試験		1H	

テ キ ス ト	ナーシング･グラフィカ 地域･在宅看護論① 地域療養を支えるケア （メディカ出版） ナーシング･グラフィカ 地域･在宅看護論② 在宅療養を支える技術 （メディカ出版）
参 考 文 献	看護学生のための在宅看護論 （医学書院）家族看護を基盤とした在宅看護論Ⅰ概論編 （看護協会出版会)家でのこと 訪問看護で出会う 13 の珠玉の物語 （医学書院)だから訪問看護はやめられない （メディカ出版）

科　目　名	在宅療養者とその家族の看護	単位数	1	時 間 数	15
講　師　名	専任教員	実務経験	有	履修年次	2 年

科目の概要	在宅看護は、疾患や障がい（害）をもちながら、地域で生活している人々とその家族が、望んでいる生活や自立した生活を維持・継続できるように看護を提供する。ここでは、基本的な生活援助の方法や、医療処置として褥瘡処置・在宅酸素療法・人工呼吸器管理・カテーテルの管理等の実際を理解する。さらにリハビリが必要な方の援助や、在宅療養者とその家族の状況をふまえた看護や、在宅における終末期看護について学ぶ。
学 習 目 標	1. 在宅療養者のヘルスアセスメントの方法がわかる 2. 在宅での療養生活における日常生活行動への支援方法がわかる 3. 在宅における医療処置を必要とする人への援助がわかる 4. 在宅でのリハビリテーションの必要性とその方法がわかる 5. 在宅療養者の障がい（害）や状況に応じた看護がわかる 6. 在宅における終末期の対象の看護がわかる

授 業 計 画	学習内容	授業方法	時間	担当
	1. 在宅看護技術 1）在宅看護の技術とは	講義 視聴覚教材 演習 ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ	2H	専任 教員
	2. 在宅に求められる技術 1）療養者の全身状態の把握 （フィジカルアセスメント） 2）生活環境の維持 3）基本的な生活行動援助 食生活・排泄・清潔・移動・呼吸への援助		3H	
	3. 在宅における医療処置に伴う援助 1）感染予防と感染対策 2）褥瘡 3）服薬管理 4）尿道カテーテルの管理 5）気管カニューレの管理 6）在宅人工呼吸器の管理		2H	
	4. 緊急時の対応		2H	
	5. 災害時のケア			
	6. 主な障がい(害)、状況にある人とその家族の看護 1）小児の在宅療養支援 2）独居生活者の看護 3）在宅での終末期における対象の看護 7. 意思決定支援、アドバンス・ケア・プランニング エンドオブライフケア		3H	
	8. 在宅におけるリハビリテーション		2H	
評 価 方 法	筆記試験　（訪問リハビリ 10 点+他　90 点/100 点		1H	

テ キ ス ト	ナーシング･グラフィカ 地域・在宅看護論①　地域療養を支えるケア（メディカ出版） ナーシング･グラフィカ 地域・在宅看護論②　在宅療養支える技術（メディカ出版）
参 考 文 献	在宅看護技術　（メチカルフレンド社） 家族看護を基盤とした在宅看護論Ⅰ概論編　（看護協会出版会）

<table>
<tr><td>科　目　名</td><td>在宅看護技術</td><td>単位数</td><td>1</td><td>時 間 数</td><td>15</td></tr>
<tr><td>講　師　名</td><td>専任教員</td><td>実務経験</td><td>有</td><td>履修年次</td><td>3 年</td></tr>
<tr><td>科目の概要</td><td colspan="5">訪問看護に必要な看護技術について学ぶ。看護の場が家庭であることから、家庭にあるものを創意工夫しながら大切に扱うことや、介護援助用品や福祉用具の目的と活用方法を理解する。実際に障がい（害）を持ちながら地域で生活するとはどのようなことかを理解する。</td></tr>
<tr><td>学 習 目 標</td><td colspan="5">1. 在宅での必要な日常生活援助がわかり創意工夫ができる
2. 介護用品、生活援助器具の目的・種類と活用方法がわかる
3. 在宅療養者の生活の様子や状態に応じた援助がわかる</td></tr>
<tr><td rowspan="4">授 業 計 画</td><td colspan="2">学習内容</td><td>授業方法</td><td>時間</td><td>担当</td></tr>
<tr><td colspan="2">1. 在宅での必要な日常生活援助がわかり
創意工夫できる
1)事例をもとに清潔援助と介護用具の工夫を考え、
実施する。</td><td rowspan="3">講義
ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
ﾛｰﾙﾌﾟﾚｲ
演習

地域の人から
お話を頂く</td><td>10H</td><td rowspan="3">専任
教員</td></tr>
<tr><td colspan="2">2. 介護用品、生活援助器具の目的・種類と活用方法
がわかる</td><td>1H</td></tr>
<tr><td colspan="2">3. 在宅療養者の生活の様子や状態に応じた援助が
わかる</td><td>3H</td></tr>
<tr><td>評 価 方 法</td><td colspan="3">筆記試験</td><td>1H</td><td></td></tr>
<tr><td>テ キ ス ト</td><td colspan="5">ナーシング･グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア （メディカ出版）
ナーシング･グラフィカ 地域・在宅看護論② 在宅療養支える技術　（メディカ出版）</td></tr>
<tr><td>参 考 文 献</td><td colspan="5">在宅看護技術　メチカルフレンド社</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科　目　名</td><td>在宅療養者の事例展開</td><td>単位数</td><td>1</td><td>時 間 数</td><td>15</td></tr>
<tr><td>講　師　名</td><td>専任教員</td><td>実務経験</td><td>有</td><td>履修年次</td><td>3 年</td></tr>
<tr><td>科目の概要</td><td colspan="5">筋萎縮性側索硬化症の事例を用い、訪問計画立案を通して難病をもつ在宅療養者とその家族の看護を学ぶ。療養者とその家族のＱＯＬ維持向上への看護とは何かを考える。ケースを通じて、ケアマネジメントや地域のケア体制および社会資源の活用方法および看護師の役割がわかる。
これまで学んだ知識と在宅看護論実習で培った学びを活かし、療養者や家族を理解し、必要なケアを学ぶ。</td></tr>
<tr><td>学 習 目 標</td><td colspan="5">1. 筋委縮性側策硬化症についての病態が理解できる
2. 人工呼吸器を装着している療養者やその家族への援助がわかる。
3. 在宅での療養生活を支える社会資源について理解できる
4. 難病を抱えて闘病する療養者や家族を理解できる
5. 事例の訪問看護が立案できる
6. 学んだことを発表し、意見交換を通して事例の看護を深めることができる</td></tr>
<tr><td rowspan="5">授 業 計 画</td><td>学習内容</td><td colspan="2">授業方法</td><td>時間</td><td>担当</td></tr>
<tr><td>1. 筋萎縮性側索硬化症の基礎的理解
1）運動神経系の解剖生理
2）筋萎縮性側索硬化症の病態・看護
3）在宅での人工呼吸器の管理</td><td colspan="2" rowspan="3">事前学習
個人学習
講義
視聴覚教材
小テスト
グループワーク</td><td>3H</td><td rowspan="5">専任
教員</td></tr>
<tr><td>2. 難病対策の概要、医療保障、障害者総合支援法、医療制度、社会資源について</td><td>2H</td></tr>
<tr><td>3. 事例を基に訪問計画立案
1）病像（健康状態）・生活像・社会像・全体像
2）看護目標、看護計画</td><td>6H</td></tr>
<tr><td>4. 発表・質疑応答　まとめ</td><td colspan="2">発表会</td><td>3H</td></tr>
<tr><td>評 価 方 法</td><td colspan="3">筆記試験(100 点)</td><td>1H</td></tr>
<tr><td>テ キ ス ト</td><td colspan="5">ナーシング･グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア （メディカ出版）
ナーシング･グラフィカ 地域・在宅看護論②　在宅療養支える技術　（メディカ出版）</td></tr>
<tr><td>参 考 文 献</td><td colspan="5">僕のいた時間　（フジテレビドラマ）　1 リットルの涙　（エフエー出版）
マドンナの首飾り　（中央法規）　しんぼう　（静山社）
こんな夜更けにバナナかよ（北海道新聞社・映画）</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科　目　名</td><td>多職種連携・協働</td><td>単位数</td><td>1</td><td>時 間 数</td><td>15</td></tr>
<tr><td>講　師　名</td><td>専任教員</td><td>実務経験</td><td>有</td><td>履修年次</td><td>3 年</td></tr>
<tr><td>科 目 概 要</td><td colspan="5">地域包括ケアシステムにおいては、看護職が多職種と協働しながら役割を遂行することが求められている。この科目では、様々な職種対象者や、保健・医療・福祉に関わる全ての人と協働し、必要に応じてチームのリーダー、メンバー、コーディネーターとしての役割を担うための基盤を学ぶ。</td></tr>
<tr><td>学 習 目 標</td><td colspan="5">1. 医療福祉関連におけるさまざまな職種の役割を理解し、尊重することができる
2. 事例をもとにケアについてのグループディスカッションができる
3. 看護職がチームケアの中でどのような役割を果たすのかを考えることができる
4. チームケアにおける多職種連携・協働について理解する
5. 他職種学生との交流により、求められる看護専門職としての役割を意識することができる</td></tr>
<tr><td rowspan="2">授 業 計 画</td><td>学習内容</td><td>授業方法</td><td>時間</td><td colspan="2">担当</td></tr>
<tr><td>1. 多職種連携・協働とは
2. 事例を用いて対象者のケアについて
他職種学生とディスカッションをする
1) オリエンテーション
2) 自己紹介と学校紹介
3) 症例紹介
4) 事例検討、ディスカッション

3. グループワークの学びの共有

4. 振り返り・レポート
レポートテーマ
1) 多職種連携・協働とは
2) チームケアにおける看護専門職としての役割について
3) 自分たちの目指すチームケア（医療）とは
4) 振り返り、今後の自己の課題

5. 哲学カフェへの参加
1) 病院職員と、共通のテーマでグループごとにディスカッションをする
2) 全体で共有</td><td>グループワーク
発表
レポート作成</td><td>15H</td><td colspan="2">専任
教員</td></tr>
<tr><td>評 価 方 法</td><td colspan="5">レポート</td></tr>
<tr><td>テ キ ス ト</td><td colspan="5"></td></tr>
<tr><td>参 考 文 献</td><td colspan="5"></td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科　目　名</td><td>成人看護学概論</td><td>単位数</td><td>1</td><td>時 間 数</td><td>30</td></tr>
<tr><td>講　師　名</td><td>専任教員</td><td>実務経験</td><td>有</td><td>履修年次</td><td>1 年</td></tr>
<tr><td>科目の概要</td><td colspan="5">当科目は、看護の対象となる成人とはどのような存在なのかが分かり、看護の基本的なアプローチについて学ぶ。危機理論・セルフケア理論や自己効力感などの理論についても触れる。また、倫理的判断が求められる場合のアプローチについても考える。</td></tr>
<tr><td>学 習 目 標</td><td colspan="5">1. 成人はどのような存在かわかる
2. 成人に対する看護のアプローチの基本がわかる</td></tr>
<tr><td rowspan="5">授 業 計 画</td><td colspan="2">学習内容</td><td colspan="2">授業方法</td><td>時間</td></tr>
<tr><td colspan="2">1. 対象の発達の理解と生活
1)青年期
2)成人前期
3)成人中期
4)成熟期</td><td colspan="2">講義
視聴覚教材
グループワーク</td><td>8H</td></tr>
<tr><td colspan="2">2.成人を取り巻く環境と生活の状況
3.成人の健康の状況
4.生活と健康を守り育むシステム</td><td colspan="2">講義
グループワーク</td><td>4H</td></tr>
<tr><td colspan="2">5. 大人の学習と行動変容を促すアプローチ
6.成人看護における倫理
7.ヘルスプロモーションと看護
8.健康の急激な破綻と回復を支援する看護
1）ボディイメージの変容
9.慢性病とともに生きる人を支える看護
10. 障害がある人の生活とリハビリテーション
11. 人生最後のときを支える看護</td><td colspan="2">講義
視聴覚教材
グループワーク</td><td>17H</td></tr>
<tr><td colspan="4">筆記試験</td><td>1H</td></tr>
<tr><td>評 価 方 法</td><td colspan="5">筆記試験</td></tr>
<tr><td>テ キ ス ト</td><td colspan="5">統計看護学講座 専門分野 成人看護学[1] 成人看護学総論　(医学書院)</td></tr>
<tr><td>参 考 文 献</td><td colspan="5">服部祥子著 『2000,生涯発達人間論』 (医学書院)</td></tr>
</table>

科　目　名	生命危機状況にある対象の看護	単位数	1	時 間 数	30
講　師　名	専任教員	実務経験	有	履修年次	2 年

科目の概要	この科目では、まず手術を受ける対象の、看護と医療安全を理解する。そして、胃がんを発症した対象の周手術期の看護を中心に学習する。また、生命の危機状況にある対象の看護について、循環器系では心筋梗塞を発症した対象を、脳神経系ではくも膜下出血を発症した対象を例に取り学習する。
学 習 目 標	1. 急性期にある対象の看護が理解できる 2. 手術を受ける対象の看護が理解できる 3. 胃癌の患者の周手術期における看護が理解できる 4. くも膜下出血を起こした患者の回復過程が分かり、必要な看護がわかる 5. 脳神経機能障害のある患者に必要な看護がわかる 6. 心筋梗塞を発症した患者の回復過程がわかり、必要な看護がわかる 7. 心不全の状態にある患者の看護がわかる

授 業 計 画

学習内容	授業方法	時間	担当
1. 急性期とは 2. 周手術期の看護 1)手術侵襲と生体反応 2)術前看護　・全身状態の管理、不安の軽減 3)手術室での看護　・麻酔、体位、手術方法 4)術後の看護　・術後合併症、疼痛管理など 3.胃がん患者の周手術期の看護 知識確認テスト(胃の形態機能、胃がんの病態)	講義 グループワーク	16H	専任教員
筆記試験	試験	1H	
4. くも膜下出血を発症した患者の看護 1) くも膜下出血を発症した患者の状況と看護 2) 手術前後の患者の状況と看護 5. 脳神経障害のﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄと看護	講義	6H	専任教員
6. 心筋梗塞を発症した患者の看護 1) 心筋梗塞を発症した患者の状況と看護 (内科的治療・外科的治療 心臓リハビリテーションにおける看護) 7. 心不全患者のﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄと看護	講義	6H	専任教員
筆記試験	試験	1H	

評 価 方 法	筆記試験①と②の平均値を評点とする ①周手術期・胃がん（学習内容 1～3）100 点 ②くも膜下出血（学習内容 4・5）50 点 心筋梗塞・心不全（学習内容 6・7）50 点　} 100 点
テ キ ス ト	･系統看護学講座　専門分野　成人看護学[5]　消化器　(医学書院) ･系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論　(医学書院) ･系統看護学講座　専門分野　成人看護学[3]　循環器　(医学書院) ･系統看護学講座　専門分野　成人看護学[7]　脳・神経　(医学書院)
参 考 文 献	

科　目　名	障害の受容過程にある対象の看護	単位数	1	時 間 数	30
講　師　名	専任教員	実務経験	有	履修年次	2 年

科目の概要	以下の 3 つの対象について、急性期から回復過程までの看護を学ぶ。まず、生活行動に障害のある対象の看護について、運動器系では、脊髄損傷患者、脳神経系では脳梗塞・脳出血患者、の看護を学ぶ。次に、ボディイメージの変容を余儀なくされた対象について、消化器系では人工肛門造設をした患者、女性生殖器系では、卵巣子宮癌患者の看護を学ぶ。また、白血病患者の看護について学ぶ。
学 習 目 標	1. 生活行動に障害のある対象の看護が理解できる 2. ボディイメージの変容を余儀なくされた対象の看護が理解できる 3. 白血病の治療、看護が理解できる

授 業 計 画	学習内容	授業方法	時間	担当
	1. 生活行動に障害のある対象の看護 1)脊髄損傷患者の経過と看護　(1)急性期	講義	2H	専任教員
	(2)亜急性期から慢性期	講義	2H	
	(3)脊髄損傷患者の発症から在宅復帰までの事例から学ぶ	講義 事例検討	2H	
	2)脳神経系の障害がある対象への看護 (1) 脳梗塞･脳出血を起こした患者の状況と看護 (2) 運動機能障害と看護 (3) 高次脳機能障害と看護 (4) 反射性運動障害と看護 (5) 感覚機能障害と看護	講義	6H	専任教員
	筆記試験①	試験	1H	
	2. ボディイメージの変容を余儀なくされた対象の看護 1)消化器系の障害がある対象への看護 (1)人工肛門造設を必要とする疾患と術式 (2)人工肛門造設術の術前･術後の看護 (3)人工肛門造設術後の合併症と生活指導	講義 演習 ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ 視聴覚教材 事例検討	7H	専任教員
	2)女性生殖器系の障害がある対象への看護 (1)卵巣癌・子宮癌の患者の看護 (2)生殖機能障害の患者の看護 (3)卵巣癌患者の看護　(4)子宮癌患者の看護	講義	4H	専任教員
	3. 白血病患者の看護 1) 造血幹細胞移植について 2) 造血幹細胞移植の看護 (1)クリーンルーム　(2)感染予防、感染管理 (3)化学療法　(4)輸血	講義	5H	専任教員
	筆記試験②	試験	1H	

評 価 方 法	筆記試験　①②の平均で評価する ①生活行動に障害のある対象の看護　100 点（運動器 50 点、脳神経 50 点） ②ボディイメージの変容を余儀なくされた対象の看護、白血病患者の看護　100 点（消化器 40 点、女性生殖器 30 点、血液 30 点）
テ キ ス ト	系統看護学講座　専門分野　成人看護学[4]血液・造血器　[5]消化器　[6]脳・神経　[9]女性生殖器　[10]運動器　（医学書院）
参 考 文 献	病気がみえる　vol.9 婦人科・乳腺外科

科　目　名	生涯にわたり疾病のコントロールを 必要とする対象の看護	単位数	1	時 間 数	30
講　師　名	専任教員　患者会員	実務経験	有	履修年次	2 年

科目の概要	成人期で、生涯にわたり疾病のコントロールを必要とする対象の看護を学ぶ。消化器系では肝硬変患者、腎泌尿器系では腎不全患者、内分泌系ではバセドウ病患者、アレルギーでは SLE 患者・リウマチ患者、感染症ではエイズ患者を例にとり看護の方法を学ぶ。
学 習 目 標	1. 肝硬変患者の看護の方法がわかる 2. 慢性腎不全患者の看護の方法がわかる 3. 慢性疾患の看護、感染症予防がわかる 4. バセドウ病・SLE・リウマチ・HIV 患者の看護の方法がわかる

授 業 計 画

学習内容	授業方法	時間	担当
1. 肝硬変患者の看護 1）肝硬変の代償期、非代償期の看護 2）安静療法・薬物療法を受けている患者の看護 3）肝硬変によりおこる症状に対する看護 4）患者・家族に対する看護 病態マップ作成	講義 ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ	7H	専任教員
2. 慢性腎不全患者の看護　（事前課題あり） 1）食事療法・安静療法・薬物療法を受けている患者の看護	講義	2H	専任教員
2)慢性腎不全によりおこる症状に対する看護 3)検査を受ける患者の看護	講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ	3H	
4)透析療法を受ける患者の看護 5）腎移植を受ける患者の看護	講義 視聴覚教材	2H	
6）透析患者の生活	講義	1H	患者会員
筆記試験①	試験	1H	
3. 慢性疾患の特性と看護 1）慢性病を抱えながら生きるとは 2）感染症予防　日和見感染症に対する看護 4. バセドウ病・SLE・慢性関節リウマチ・HIV 患者の看護 1）病態生理、予後、症状、治療 2）主な症状、検査、治療と看護 3）生活、心理面、家族への援助	講義 視聴覚教材 ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ	13H	専任教員
筆記試験②	試験	1H	

評 価 方 法	筆記試験　　①と②の平均値を評点とする。 ②　肝硬変 50 点＋腎不全 50 点＝100 点 ③　慢性疾患、感染症予防、膠原病、バセドウ、ＨＩＶ＝100 点
テ キ ス ト	系統看護学講座　専門分野　成人看護学[5]　消化器　（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　成人看護学[8]　腎・泌尿器　（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　成人看護学[6]　内分泌・代謝　（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　成人看護学[11] アレルギー膠原病 感染症（医学書院）
参 考 文 献	これからの腎不全看護　個別的なケアを実現するための意思決定支援　インターメディカ

科　目　名	治療困難な終末期にある対象の看護	単位数	1	時 間 数	30
講　師　名	専任教員　病院看護師　病院認定看護師	実務経験	有	履修年次	2 年
科目の概要	終末期にある対象の看護について学ぶ。身体的苦痛に加えて、心理的苦痛を伴う患者に対し、患者、家族のＱＯＬの充実と、生きることを支える援助である緩和ケアの知識と技術を学ぶ。さらに、生命を支える医療機器の管理の必要性についても学ぶ。				
学 習 目 標	1. 終末期にある対象の看護の目的と、苦痛緩和の方法、家族への援助がわかる。 2. 生命を支える医療機器の取り扱いと、管理方法がわかる。				

授 業 計 画	学習内容	授業方法	時間	担当
	1. 終末期の看護とは 2. 乳癌患者の治療に伴う看護 1）手術療法・放射線療法・化学療法（分子標的薬）を受ける患者の看護 2）乳房切除術を受けた患者の看護 3. がん患者と家族への看護 1）患者の抱える苦痛 2）がん患者の社会参加への支援 4. 終末期にある患者及び緩和を必要とする患者と家族への看護 １）緩和ケアの定義 2）緩和ケアにおける看護師の役割 3）身体症状のマネジメントの基本的考え ・疼痛コントロール ・麻薬の管理 4）全人的苦痛のアセスメント 5）苦痛緩和と意思決定 6）家族ケア	講義 視聴覚教材 演習	13H	専任 教員
	5. 終末期患者への援助 6. 終末期までの一連にかかわる多職種連携	講義	2H	病院 認定看 護師
	7. 肺癌患者の治療に伴う看護 8. 呼吸不全の治療に伴う看護 9. 人工呼吸器の適応と理解	講義 演習	10H	病院 看護師
	10. 安楽な呼吸の援助 1）吸入(酸素、薬物)の方法 2）体位ドレナージ 2）吸引の方法 3）酸素ボンベの取り扱い	講義 演習	1H 4H	専任 教員
評 価 方 法	筆記試験 （終末期の看護　50 点・肺癌患者の治療に伴う看護　40 点 安楽な呼吸の援助　10 点）		1H	
テ キ ス ト	･系統看護学講座　専門分野　成人看護学[2]呼吸器 [9]女性生殖器（医学書院） ･ナーシンググラフィカ　成人看護学⑥　緩和ケア　　（メディカ出版） ･系統看護学講座　専門分野　基礎看護学[3]　基礎看護技術Ⅱ　（医学書院）			
参 考 文 献	･病気が見える　vol. 9　婦人科・乳腺外科　･病気が見える　vol. 4　呼吸器			

科　目　名	健康障害のある成人の事例展開	単位数	1	時 間 数	30
講　師　名	専任教員　病院看護師(糖尿病療法士)	実務経験	有	履修年次	2 年
科目の概要	成人期の慢性疾患を抱えた対象の看護を学ぶ。この科目では、代謝系の糖尿病をとりあげ、成人期の特徴を踏まえ、自己管理ができるための、看護の方法を学ぶ。事例を読み対象の問題を明確にし、看護計画を立案する				
学 習 目 標	1. 糖尿病の病態を理解できる 2. 成人期の糖尿病患者の看護計画を立案できる 3. 看護計画を発表できる 4. 血糖採血の実際がわかる				

授 業 計 画	学習内容	授業方法	時間	担当
	1. 糖尿病の病態を理解できる 1）糖尿病の病態生理 2）糖尿病の検査 3）糖尿病の治療	TBL グループワークで 関連図作成 発表	1H 2H 1H	専任 教員
	2. 成人期の糖尿病患者の看護計画を立案できる 3. 看護計画を発表できる	個人ワーク グループワーク グループ面談 発表会	3H 15H 5H	
	4. 血糖採血の実際がわかる 血糖測定、インシュリン注射	講義 演習	1H 2H	糖尿病 療法士
評 価 方 法	基礎知識の確認—1 について TBL：15 点、関連図：10 点 提出課題の評価：20 点　　グループワーク 10 点 筆記試験 45 点		1H	
テ キ ス ト	系統看護学講座　専門分野　成人看護学[6] 内分泌・代謝　(医学書院)			
参考文献	斎藤宜彦著「ナースのための糖尿病レクチャー」(文光堂) 西崎統著　「JJN スペシャル新・糖尿病ナーシング」　(医学書院) 病気がみえる③ 糖尿病・代謝・内分泌　(メディックメディア)			

科　目　名	老年看護学概論	単位数	1	時 間 数	30
講　師　名	専任教員	実務経験	有	履修年次	1年
科目の概要	老年期にある対象の特徴を理解し、人口の高齢化が地域社会に及ぼす影響や医療や看護における課題について学習する。また高齢者が自立した生活をするために社会保障や高齢者を支える家族の理解を深め老年看護の目的を学習する。				
学 習 目 標	1. 高齢者の身体的・精神的・社会的特徴がわかる 2. 高齢者のもつ多様性(経験の意味、価値など)がわかる 3. 高齢者の保健・医療・福祉の動向と課題がわかる 4. 高齢者の生活を維持するための保健・医療・福祉対策と支援ケアシステムがわかる 5. 高齢者の人権と看護の倫理原則がわかる 6. 老年看護の目標や看護のはたす役割がわかる				

授 業 計 画	学習内容	授業方法	時間	担当
	1. 老いるということ、老いを生きるということ 1) 老いとは 2) 加齢に伴う身体的・精神的機能の変化 3) ライフステージとしての老年期	講義	4H	専任教員
	4) 高齢者の模擬体験	演習・レポート	3H	
	5) ライフヒストリーのグループワーク	グループワーク	2H	
	6) ライフヒストリー発表	発表	3H	
	2. 老年保健・医療・福祉の動向 1) 高齢社会の実態 2) 高齢化が地域社会に及ぼす影響 3) 高齢者医療の動向と保健活動 4) ソーシャルサポートシステム	講義	3H	
	5) 保健医療福祉システムの構築 6) 介護保険制度 7) 高齢者を支える職種と活動の多様化	講義・演習	2H	
	8) 主な保健医療福祉施設について調べる	調べ学習	2H	
	主な保健医療福祉施設の発表	グループ発表	3H	
	3. 老年看護と看護倫理 1)高齢者の人権と倫理問題 (1)権利擁護（アドボカシー）(2)身体拘束 (3)高齢者虐待　(4)高齢者差別 (5)自己決定権　(6)倫理（高齢者の選択）	講義 視聴覚教材	4H	
	4. 老年看護の原則と目標	講義 視聴覚教材	3H	
評 価 方 法	筆記試験　100 点		1H	
テ キ ス ト	･系統看護学講座　専門分野　　老年看護学　（医学書院） ･国民衛生の動向　厚生統計協会			
参 考 文 献	DVD、「胃瘻という選択、しない選択」			

科　目　名	老年者の健康の維持・増進	単位数	1	時 間 数	15
講　師　名	専任教員　病院認定看護師　病院看護師	実務経験	有	履修年次	2 年
科目の概要	加齢や障害の程度に応じた老年看護の実際がわかり、高齢者に対する基本的な日常生活援助を学ぶ。また、老年看護に特有な看護技術を学ぶ。				
学 習 目 標	1. 高齢者の特徴をとらえ健康の維持・増進のための援助方法、老年看護の役割と機能がわかる 2. 老年看護に特有な看護技術がわかる				

授 業 計 画	学習内容	授業方法	時間	担当
	1. 高齢者に対する基本的な日常生活援助 1)基本動作と環境調整	講義	2H	専任教員
	(1)転倒・転落・外傷予防	演習	2H	
	2)食事 3)排泄	講義	2H	
	4)清潔・衣生活 5)活動と休息 6)コミュニケーション	講義	3H	
	2. 老年者に特有な看護技術 1) 摂食・嚥下障害のある患者の看護	講義・演習	2H	病院認定看護師
	2) 看取り時の看護 (1)死後の処置 (2)エンゼルケアメイクの実際	講義・演習	2H	病院看護師
	3. 老年看護の役割と機能 1)老年看護の援助の基本 2)エンドオブライフケア、アドバンスケアプラニング	講義 視聴覚教材	1H	専任教員
評 価 方 法	筆記試験　100 点		1H	
テ キ ス ト	系統看護学講座　専門分野　老年看護学　　（医学書院）			
参 考 文 献	･ナーシンググラフィカ　老年看護学① 高齢者の健康と障害　（メディカ出版） ･ナーシンググラフィカ　老年看護学② 高齢者看護の実践　　（メディカ出版） ･イラストでわかる高齢者のからだと病気　（中央法規）			

科　目　名	老年者の健康障害の特徴と看護	単位数	1	時 間 数	30
講　師　名	専任教員　　病院認定看護師	実務経験	有	履修年次	2 年
科目の概要	老年看護概論で学んだことをベースに、加齢による変化を学ぶ。また、高齢者に多い健康障害の特徴、検査・治療を受ける高齢者の看護、健康障害をもつ高齢者の看護の方法を学ぶ。				
学 習 目 標	1.　高齢者に多い健康障害の特徴と症状に対する援助方法がわかる 2.　高齢者の検査・治療に対する援助方法がわかる 3.　老年期に多い健康障害を持つ高齢者に対する看護の方法がわかる				

	学習内容	授業方法	時間	担当
授 業 計 画	1.　高齢者に多い健康障害の特徴 1）身体の加齢変化とアセスメント 2）高齢者総合機能評価	講義	2H	専任教員
	3）各症状に対する看護 ①発熱②痛み③掻痒④脱水⑤嘔吐⑥浮腫⑦倦怠感	講義	4H	
	⑧褥瘡（予防とケア）	演習	2H	
	4）老年症候群、フレイル、サルコペニア ロコモティブシンドローム、廃用症候群	講義	4H	
	2.　検査・治療を受ける高齢者への看護	講義	2H	
	3.　健康障害を持つ高齢者に対する看護の方法 1）脳卒中 2）心不全 3）糖尿病 4）慢性閉塞性肺疾患 5）パーキンソン病・パーキンソン症候群 6）肺炎 7）骨粗鬆症 8）骨折	講義	5H	
	9）認知症	講義・演習	5H 2H	専任教員 病院認定看護師
	10）うつ病・せん妄のある高齢者の看護	講義	3H	専任教員
評 価 方 法	筆記試験		1H	
テ キ ス ト	･系統看護学講座　専門分野　老年看護学　（医学書院） ･系統看護学講座　専門分野　老年看護　病態・疾患論　（医学書院）			
参 考 文 献	･ナーシンググラフィカ　老年看護学①　高齢者の健康と障害　（メディカ出版） ･ナーシンググラフィカ　老年看護学②　高齢者看護の実践　（メディカ出版） ･イラストでわかる高齢者のからだと病気　（中央法規）			

<table>
<tr><td>科　目　名</td><td>健康障害のある老年者の事例展開</td><td>単位数</td><td>1</td><td>時 間 数</td><td>15</td></tr>
<tr><td>講　師　名</td><td>専任教員</td><td>実務経験</td><td>有</td><td>履修年次</td><td>2 年</td></tr>
<tr><td>科目の概要</td><td colspan="5">この科目では、高齢者が疾患や老化によって生活に支障をきたす姿を理解し、看護者としてどのように援助したらよいかを事例を通して学ぶ。具体的には高齢者に頻発する大腿骨頚部骨折をおこした高齢者の事例を看護過程を使い看護計画を立てる。</td></tr>
<tr><td>学 習 目 標</td><td colspan="5">1. 老年期の特徴、大腿骨頚部骨折の病態・看護がわかる
2. 事例の看護計画が立てられる
3. 発表意見交換を通し、事例の看護を深めることができる</td></tr>
<tr><td rowspan="6">授 業 計 画</td><td colspan="2">学習内容</td><td>授業方法</td><td>時間</td><td>担当</td></tr>
<tr><td colspan="2">1. 老年期の特徴、大腿骨頚部骨折
（病態・治療・看護）についてテスト
2. 事例学習のオリエンテーション
1）学習内容
2）科目の概要・ねらい
3）学習目標
4）個人ワークの進め方
5）グループワークの進め方
6）発表について</td><td>小テスト
講義</td><td>2H</td><td rowspan="5">専任
教員</td></tr>
<tr><td colspan="2">3.「在宅療養していた高齢者が大腿骨頚部骨折を
おこして手術をうけた事例」の看護計画の立案
1）個人で全体像まで作成し提出</td><td>個人ワーク
個人評価</td><td>6H</td></tr>
<tr><td colspan="2">2）グループワークで目標・問題点・具体策を立案
3）発表準備</td><td>グループワーク
グループ評価</td><td>3H</td></tr>
<tr><td colspan="2">4. グループごとに分かれて発表
質疑応答
5. まとめ</td><td>発表
質疑応答</td><td>3H</td></tr>
<tr><td>評 価 方 法</td><td colspan="3">小テスト：10 点　個人評価 ： 20 点　グループ評価 ： 10 点
筆記試験 ： 60 点</td><td>1H</td><td></td></tr>
<tr><td>テ キ ス ト</td><td colspan="5">･系統看護学講座　専門分野　成人看護学[10]　運動器　（医学書院）
･系統看護学講座　専門分野　老年看護学　（医学書院）
･系統看護学講座　専門分野　老年看護・病態・疾患論　（医学書院）</td></tr>
<tr><td>参 考 文 献</td><td colspan="5">整形外科ナースの必須看護技術　（メデイカ出版）
整形外科疾患病態生理と術前術後ケア　（メデイカ出版）
病気がみえる⑪運動器・整形外科　（メディックメディア）</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科　目　名</td><td>小児看護学概論</td><td>単位数</td><td>1</td><td>時 間 数</td><td>15</td></tr>
<tr><td>担 当 教 員</td><td>専任教員 外部講師</td><td>実務経験</td><td>有</td><td>履修年次</td><td>2 年</td></tr>
<tr><td>科目の概要</td><td colspan="5">大人とは違う小児の特性を知ることで、小児に関わる視点を学ぶ。小児の健全な発達に影響を及ぼす因子や健康を護るシステムを理解する。</td></tr>
<tr><td>学 習 目 標</td><td colspan="5">1. 小児の特性がわかる
2. 小児看護の対象がわかる
3. 小児看護の変遷がわかる
4. 子どもと家族を取り巻く社会の変化がわかる
5. 子どもと家族の権利を守る法律がわかる
6. 子どもと家族に必要な看護の役割と倫理が考えられる</td></tr>
<tr><td rowspan="9">授 業 計 画</td><td>学習内容</td><td colspan="2">授業方法</td><td>時間</td><td>担当</td></tr>
<tr><td>1. 子どもの成長・発達
1）成長・発達
2）発育の原則
3）発育に影響する因子
4）小児各期
2. 小児看護の対象</td><td colspan="2">講義・演習
視聴覚教材</td><td>3H</td><td rowspan="4">専任
教員</td></tr>
<tr><td>3. 小児看護の変遷
4. 子どもと家族を取り巻く社会の変化
1)出生率、小児死亡、受療率、罹患率、家族構成、食生活、遊び、貧困
5. 子どもと家族の権利を守る法律
1）児童憲章、児童の権利に関する条約</td><td rowspan="6" colspan="2">講義</td><td>3H</td></tr>
<tr><td>2）児童福祉法、母子保健法、学校保健安全法、予防接種法</td><td>2H</td></tr>
<tr><td>6. 小児看護における倫理</td><td>2H</td></tr>
<tr><td>7. 児童虐待の現状</td><td>2H</td><td>外部
講師</td></tr>
<tr><td>8. 小児看護の役割</td><td>2H</td><td>専任
教員</td></tr>
<tr><td>評 価 方 法</td><td colspan="2">筆記試験</td><td>1H</td><td></td></tr>
<tr><td>テ キ ス ト</td><td colspan="5">統計看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児概論／臨床総論　　（医学書院）</td></tr>
<tr><td>参 考 文 献</td><td colspan="5">生涯人間発達論　服部祥子　（医学書院）
国民衛生の動向</td></tr>
</table>

科　目　名	子どもの成長・発達と看護	単位数	1	時 間 数	30
担 当 教 員	専任教員	実務経験	有	履修年次	2 年
科目の概要	小児各期の成長発達の詳細を理解する。それに基づきその時々の健全な成長発達を促す援助について具体的に学ぶことをねらいとする。小児看護の対象は、出生前から青年期までの時期まで幅広い。したがって、母性看護学と成人看護学と重なる部分をもつ。ここでは乳児期から思春期に重点を置いて教授する。				
学 習 目 標	1. 子供の成長と発達 2. 新生児の健康増進のための看護と家族への支援 3. 乳児の健康増進のための看護と家族への支援 4. 幼児の健康増進のための看護と家族への支援 5. 学童期の子どもの健康増進のための看護と家族への支援 6. 思春期の子どもの健康増進のための看護と家族への支援				

授 業 計 画	学習内容	授業方法	時間	担当
	1. 形態機能的発達 2. 心理社会的発達（エリクソン、ピアジェ） 3. 発育評価 1)フィジカルアセスメント 2)乳幼児発育曲線、肥満度、指数	講義 視聴覚教材	4H	専任教員
	4. 新生児の特徴と必要な看護 1)低出生体重児を含む 5. 新生児のいる家族への看護	講義 視聴覚教材 グループワーク	4H	
	6. 乳児の特徴と必要な看護 7. 乳児のいる家族への看護	講義 視聴覚教材 グループワーク	7H	
	8. 幼児の特徴と必要な看護 9. 幼児のいる家族への看護	講義 視聴覚教材 グループワーク	7H	
	10. 学童期の特徴と必要な看護 11. 学童期の子どもがいる家族への看護	講義	2H	
	12. 思春期の特徴と必要な看護 13. 思春期の子どもがいる家族への看護	講義	2H	
	14. 小児に必要な技術	講義・演習	3H	
評 価 方 法	筆記試験　100 点		1H	
テ キ ス ト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1]　小児概論／臨床総論　（医学書院） 系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2]　小児各論　（医学書院）			
参 考 文 献	服部祥子著 『生涯人間発達論』 医学書院 平井信義・監修 『新・保育所保育指針解説』 ひかりのくに 豊田君夫著 『これだけは知っておきたい保育の禁句・保育の名句』 黎明書房 今井弘雄著 『子育て支援のための手遊び・指遊び４２』 黎明書房 明橋大二著 『輝ける子』 『思春期にがんばってる子』『子育てハッピーアドバイス』 シリーズ１万年堂出版 『国語 上 １～６ 』 光村図書 《ﾋﾞﾃﾞｵ》「乳児の脳の発達と反射」 「乳児の発育」 「さくらんぼ坊や」 「未熟児の看護」			

科　目　名	健康障がいをもつ子ども家族への看護	単位数	1	時 間 数	30
担 当 教 員	病院医師　専任教員　外部講師	実務経験	有	履修年次	2 年
科目の概要	小児の健康障がい時における看護を理解する。そのために、小児特有の健康障がいや小児に多い健康障がいの病態生理を学ぶことが必要である。病態をとらえ、成長発達に応じた看護について理解する。				
学 習 目 標	1. 健康障がいが子どもと家族に与える影響とその看護がわかる 2. 小児特有な疾患・小児に多い疾患の原因・症状・診断・治療・予後がわかる 3. さまざまな状況にある子どもと家族への看護がわかる 4. 小児看護技術の習得ができる				

授 業 計 画	学習内容	授業方法	時間	担当
	1. 病気や入院が子どもや家族に与える影響 2. 入院を要する子どもと家族への看護 1)入院環境、入院オリエンテーション、身体計測、バイタルサイン測定 2)プレパレーション（検査、処置、活動制限）	講義	3H	専任教員
	3. 先天異常と手術・処置を要する疾患	講義	4H	病院医師
	4. 感染症		2H	
	5. 障害 6. 白血病、川崎病		2H	
	7. 気管支喘息、糖尿病、ネフローゼ症候群		2H	
	8. 急性期にある子どもと家族への看護 1)症状に対する看護 2)外来における看護 3)手術を受ける子ども、救急処置を受ける子ども	講義	6H	専任教員
	9. 回復期にある子どもと家族への看護		2H	
	10. 慢性期にある子どもと家族への看護 1)心身障がいのある子ども 2)先天的な問題、隔離	講義	1H 2H	専任教員 外部講師
	11. 終末期にある子どもと家族への看護 1)痛み	講義	1H	専任教員
	12. 小児看護技術 1) 採血時の抑制 2) 座薬使用の方法 3) 輸液療法中の小児の寝衣交換 4) 採尿パック、	講義 演習	1H 3H	
評 価 方 法	筆記試験		1H	
テ キ ス ト	系統看護学講座　専門分野 小児看護学[1] 小児概論／臨床総論　（医学書院） 統計看護学講座　専門分野 小児看護学[2] 小児各論　（医学書院）			
参 考 文 献	・すずらんの会　『電池が切れるまで』　角川書店 ・スーザン・バーレイさく・え『わすれられないおくりもの』評論社 ・『小児看護』　へるす出版・山城雄一郎他著　『難病の子どもを知る本』　大月書店 ・吉崎達郎・明橋大二著『子育てハッピーアドバイス小児科の巻』シリーズ 1万年堂出版　《ﾋﾞﾃﾞｵ》 「小児看護技術」vol. 1～3　医学映像教育センター 「小児のフィジカルアセスメント」vol. 1～3　医学映像教育センター			

<table>
<tr><td>科　目　名</td><td>健康障がいのある子ども家族の事例展開</td><td>単位数</td><td>1</td><td>時 間 数</td><td>30</td></tr>
<tr><td>担 当 教 員</td><td>専任教員</td><td>実務経験</td><td>有</td><td>履修年次</td><td>2 年</td></tr>
<tr><td>科目の概要</td><td colspan="5">既習学習内容の成長発達や健康障がい時の援助の知識を統合し、小児の健康問題を解決する方法を学ぶ。個人の病態生理を理解する力、問題解決をする力の育成を目指す。</td></tr>
<tr><td>学 習 目 標</td><td colspan="5">1. 気管支喘息の病態生理･治療･看護がわかる
2. 気管支喘息児の事例の患児および家族の看護が考えられる</td></tr>
<tr><td rowspan="8">授 業 計 画</td><td colspan="2">学習内容</td><td colspan="2">授業方法</td><td>時間</td><td>担当</td></tr>
<tr><td colspan="2">1. 呼吸器の形態機能、喘息の病態（症状のメカニズム
発作の誘因、発作の程度・重症度、薬物療法）
2. 急性期に必要な看護
3. 学童期の発達課題</td><td colspan="2">ＴＢＬ</td><td rowspan="2">2Ｈ</td><td rowspan="7">専任
教員</td></tr>
<tr><td colspan="2">4. 学童期の児と家族に必要な退院時の看護
5. 子どもを入院させた母親の心理と母親に必要な援助</td><td colspan="2">講義</td></tr>
<tr><td colspan="2">6. 事例から必要とされる看護を導く
1）情報を分析し、各像をまとめる
2）全体像をまとめ、看護の方向性を明らかにする</td><td colspan="2">個人ワーク</td><td>2Ｈ
4Ｈ</td></tr>
<tr><td colspan="2">3）看護目標を設定する
4）問題点を明らかにする
5）具体策を立案する</td><td colspan="2">ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ</td><td>18Ｈ</td></tr>
<tr><td colspan="2">6）発表準備をする</td><td colspan="2">個人ワーク</td><td>1Ｈ</td></tr>
<tr><td colspan="2">7. 看護計画を発表する
8. 必要な看護を理解する</td><td colspan="2">発表
まとめ</td><td>4Ｈ</td></tr>
<tr><td>評 価 方 法</td><td colspan="4">TBL（20 点）、個人の看護計画（20 点）
グループの看護計画（20 点）、筆記試験（40 点）</td><td>1Ｈ</td><td></td></tr>
<tr><td>テ キ ス ト</td><td colspan="5">系統看護学講座 専門分野　小児看護学[1] 小児概論／臨床総論　（医学書院）
系統看護学講座 専門分野　小児看護学[2] 小児各論　（医学書院）</td></tr>
<tr><td>参 考 文 献</td><td colspan="5">『小児看護』　へるす出版　VOL.37 No.1 p52～58
『ここが知りたい小児ぜん息』Q&A　独立行政法人環境再生保全機構
『看護学生のためのプチナースブックス　自分で描ける病態関連図』　照林社</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科　目　名</td><td colspan="2">母性看護学概論</td><td>単位数</td><td>1</td><td>時間数</td><td>30</td></tr>
<tr><td>講　師　名</td><td colspan="2">専任教員</td><td>実務経験</td><td>有</td><td>履修年次</td><td>1 年</td></tr>
<tr><td>科 目 の 概 要</td><td colspan="6">母性看護学は、次代を担う新しい生命を育てる意義を理解し、女性のライフサイクル各期の特徴に応じた看護ができるための能力を養うことを目標とする。そこで概論では、母性の概念となる基盤、女性の生き方の変化、母子を取り巻く社会の変化を学習し、母性看護の目的を理解する。
さらに生殖補助医療の進歩から生命倫理について考える機会とする。</td></tr>
<tr><td>学　習　目　標</td><td colspan="6">1.　母性看護の対象を身体的・精神的・社会的側面から理解できる。
2.　次代を産み育てる母性の役割と女性のライフサイクルにおける健康問題を理解し看護の役割を理解できる。</td></tr>
<tr><td rowspan="9">授　業　計　画</td><td colspan="2">学習内容</td><td colspan="2">授業方法</td><td>時間</td><td>担当</td></tr>
<tr><td colspan="2">1. これから学ぶ母性看護とは
1)DVD「ずっといっしょ」視聴
2)DVD や母子健康手帳より「私の誕生」について考える</td><td colspan="2">講義
視聴覚教材</td><td>4H</td><td rowspan="8">専任
教員</td></tr>
<tr><td colspan="2">2. 母性とは
1）母性・父性の概念
2）母性の発達課題
3）母子関係・母子相互作用
親になるとは・親性とは</td><td colspan="2">講義
グループワーク</td><td>6H</td></tr>
<tr><td colspan="2">3. 生命倫理を考える機会を持つ
テーマ「代理母」「人工妊娠中絶」
「赤ちゃんポスト」「出生前診断」「多胎児の減数手術」「非配偶者間人工授精」</td><td colspan="2">グループワーク</td><td>8H</td></tr>
<tr><td colspan="2">4. 人間の性
1）人間にとっての性・生殖とは
リプロダクティブ・ヘルス／ライツ</td><td colspan="2" rowspan="2">講義</td><td rowspan="2">4H</td></tr>
<tr><td colspan="2">1. 母性看護の変遷
2. 母性保健
1）母性に関する法律
2）母子衛生統計
母性に関する施策</td></tr>
<tr><td colspan="2">7. 母性看護を取り巻く現状</td><td colspan="2">個人ワーク</td><td>6H</td></tr>
<tr><td colspan="2">8. 母性看護の役割と機能</td><td colspan="2">講義</td><td>1H</td></tr>
<tr><td>評　価　方　法</td><td colspan="4">筆記試験</td><td>1H</td><td></td></tr>
<tr><td>テ　キ　ス　ト</td><td colspan="6">系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学概論　母性看護学Ⅰ　医学書院
ナーシング・グラフィカ　母性看護学①　概論・リプロダクティブヘルスと看護</td></tr>
<tr><td>参　考　資　料</td><td colspan="6">DVD「うまれる」「ずっといっしょ」VTR「いのちの誕生」</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科　目　名</td><td colspan="2">女性のライフサイクルと看護</td><td>単位数</td><td>1</td><td>時間数</td><td>15</td></tr>
<tr><td>講　師　名</td><td colspan="2">専任教員</td><td>実務経験</td><td>有</td><td>履修年次</td><td>2 年</td></tr>
<tr><td>科目の概要</td><td colspan="6">母性看護の対象は、女性の一生である。しかし、ここでは性機能が発現していく思春期、母性機能を発揮する成熟期、性機能が衰え停止するまでの更年期を対象とする。この科目は、母性各期の対象の理解を深め、母性機能が健全に発達するよう援助する方法を学ぶ。</td></tr>
<tr><td>学習目標</td><td colspan="6">1.　思春期における健康な母性を育てるための援助の方法を学ぶ
2.　成熟期の母性を理解、健康を守り母性機能を発揮できるための援助方法を学ぶ
3.　更年期を身体的、心理的、社会的側面から理解し援助方法を学ぶ</td></tr>
<tr><td rowspan="5">授 業 計 画</td><td colspan="2">学習内容</td><td colspan="2">授業方法</td><td>時間</td><td>担当</td></tr>
<tr><td colspan="2">1. 思春期母性への看護
1）母性のライフサイクルにおける思春期の特徴
2）思春期の母性機能を阻害する因子
3）母性の準備期としての援助
性教育「性教育の意味、あり方を考える」</td><td colspan="2">講義
視聴覚教材
グループワーク</td><td>9H</td><td rowspan="4">専任
教員</td></tr>
<tr><td colspan="2">2. 成熟期母性への看護
1）母性のライフサイクルにおける成熟期の特徴
2）不妊症とその看護
3）家族計画</td><td colspan="2">講義
グループワーク</td><td>2H</td></tr>
<tr><td colspan="2">3. リプロダクティブヘルスケア
1）性感染症とその予防
2)人工妊娠中絶と看護</td><td colspan="2">グループワーク</td><td>1H</td></tr>
<tr><td colspan="2">4.　更年期母性への看護
1）母性のライフサイクルにおける更年期の特徴
2）更年期障害とその看護
更年期障害の原因
3）エストロゲン低下により起こりやすい健康障害</td><td colspan="2">講義</td><td>2H</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="4">筆記試験</td><td>1H</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="6">系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学概論　母性看護学Ⅰ　医学書院
ナーシング・グラフィカ　母性看護学①　概論・リプロダクティブヘルスと看護</td></tr>
<tr><td>参考文献</td><td colspan="6">うえきひろこ著「100 個目のたまご」DVD「ファミリープラン」</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科　目　名</td><td>妊娠・分娩期の看護</td><td>単位数</td><td>1</td><td>時間数</td><td>30</td></tr>
<tr><td>講　師　名</td><td>専任教員・病棟助産師</td><td>実務経験</td><td>有</td><td>履修年次</td><td>2 年</td></tr>
<tr><td>科目の概要</td><td colspan="5">生命は母の胎内で育てられやがて出産を迎え、誕生する。そしてその生命は一人の人間として成長していく。この過程が正常かつ健康に経過するよう援助の方法を学ぶ。この科目では妊娠から分娩までの正常な経過と看護、看護に必要な技術、さらに妊娠・分娩の異常と看護まで学ぶ。</td></tr>
<tr><td>学 習 目 標</td><td colspan="5">1.　妊娠の生理と正常な経過を理解しさらに妊婦の心理的変化を踏まえ妊婦への看護の方法を学ぶ
2.　異常妊娠とその看護を学ぶ
3.　分娩の生理、分娩の経過を理解し、産婦の看護の方法を学ぶ
4.　異常分娩とその看護が理解できる</td></tr>
<tr><td rowspan="8">授 業 計 画</td><td>学習内容</td><td colspan="2">授業方法</td><td>時間</td><td>担当</td></tr>
<tr><td>1. 妊娠の仕組み・生理
1）妊娠の生理と経過、妊娠の成立
2 胎盤及び付属物の形成と働き、胎児の発育とその生理</td><td colspan="2">講義
視聴覚教材
グループワーク</td><td rowspan="3">14H</td><td rowspan="3">専任
教員</td></tr>
<tr><td>2. 妊婦と胎児のフィジカルアセスメント</td><td colspan="2">講義
演習</td></tr>
<tr><td>3. 妊婦の看護
1）妊婦健康診査
2）妊婦の健康教育（保健指導）</td><td colspan="2">講義
グループワーク</td></tr>
<tr><td>4. 妊娠の異常と看護
1）ハイリスク妊娠、糖尿病合併妊娠
妊娠期の感染症
2）妊娠悪阻・妊娠高血圧症候群など</td><td colspan="2">講義</td><td>5H</td><td>病院
助産師</td></tr>
<tr><td>5. 分娩の仕組み・生理
1）分娩の 3 要素、分娩の機序、分娩経過
2）分娩が胎児に及ぼす影響</td><td colspan="2">講義</td><td rowspan="2">7H</td><td rowspan="3">専任
教員</td></tr>
<tr><td>6. 産婦の看護
1）産婦のアセスメント
2）看護の原則（安全、事故防止含む）
3）分娩第Ⅰ期～Ⅳ期の看護</td><td colspan="2">講義
視聴覚教材
演習</td></tr>
<tr><td>7. 分娩の異常と看護
1）娩出力の異常、産道の異常、胎児・付属物の異常
2）産科手術</td><td colspan="2">講義</td><td>3H</td></tr>
<tr><td>評 価 方 法</td><td colspan="2">筆記試験</td><td>1H</td><td></td></tr>
<tr><td>テ キ ス ト</td><td colspan="5">系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学各論　母性看護学②　医学書院
ナーシング・グラフィカ　母性看護学③　母性看護技術　メディカ出版</td></tr>
<tr><td>参 考 文 献</td><td colspan="5">DVD「うまれる」「ずっといっしょ」 DVD「目で見る母性看護」
岡庭豊「病気がみえる Vol.10」メディックメディア</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科　目　名</td><td>産褥・新生児期の看護</td><td>単位数</td><td>1</td><td>時 間 数</td><td>30</td></tr>
<tr><td>講　師　名</td><td>専任教員</td><td>実務経験</td><td>有</td><td>履修年次</td><td>2 年</td></tr>
<tr><td>科目の概要</td><td colspan="5">褥婦・新生児の正常な生理と看護、異常とその看護を学ぶ。また既習の知識を活用し、事例を元にして看護過程を使いながら対象への看護を実践する能力を養う。</td></tr>
<tr><td>学 習 目 標</td><td colspan="5">1. 産褥の生理と褥婦の看護を理解する
2. 産褥期に起こりやすい異常と看護を理解できる
3. 新生児は、特に胎外生活適応過程(出生直後と１週間の変化)を理解できる
また、その際の基本な看護を理解できる
4. 早期新生児時期に起こりやすい異常とその看護を理解できる
5. 事例から産褥期の母児の看護が理解できる</td></tr>
<tr><td rowspan="5">授 業 計 画</td><td>学習内容</td><td colspan="2">授業方法</td><td>時間</td><td>担当</td></tr>
<tr><td>1. 産褥期の看護
1)産褥の生理（身体的変化）
退行性変化　　進行性変化
2)褥婦の心理過程（レバ・ルビン）
3)褥婦の看護
(1)看護目標
(2)褥婦の看護〔入院１週間における〕
4)褥婦の看護に必要な看護技術
5)母性看護に必要な看護者の態度
2. 産褥の異常と看護
1)産褥期に起こりやすい３大症状
2)子宮復古不全
3)乳房トラブル
4)マタニティブルーズ　　他</td><td colspan="2">講義
視聴覚教材</td><td>6H</td><td rowspan="4">専任
教員</td></tr>
<tr><td>3. 新生児の看護
1)新生児の生理
2)新生児の看護
(1)出生直後の看護
(2)その後の新生児の看護
4. 新生児の異常と看護
1)新生児仮死、新生児高ビリルビン血症他</td><td colspan="2">講義
視聴覚教材</td><td>7H</td></tr>
<tr><td>筆記試験</td><td colspan="2">試験</td><td>1H</td></tr>
<tr><td>5. 事例から産褥期の母児の看護
1) 産褥の母と児の看護を計画立案する
6. 新生児の看護技術
1) 新生児の沐浴</td><td colspan="2">グループワーク
演習</td><td>16H</td></tr>
<tr><td>評 価 方 法</td><td colspan="5">筆記試験（産褥期・新生児期）85 点　事例レポート 15 点　　計：100 点</td></tr>
<tr><td>テ キ ス ト</td><td colspan="5">系統看護学講座　専門分野　母性看護学〔2〕母性看護学各論　（医学書院）
ナーシンググラフィカ　母性看護技術　母性看護学③　（メディカ出版）</td></tr>
<tr><td>参 考 文 献</td><td colspan="5">今津ひとみ著　『妊娠･分娩』　医歯薬出版株式会社
仁志田博司著　『新生児学入門』　メディカ出版
《DVD》「目でみる新生児看護」　　・ナーシングチャンネル</td></tr>
</table>

科　目　名	精神看護学概論	単位数	1	履修年次	30
講　師　名	専任教員	実務経験	有	履修年次	1年
科目の概要	人間の心の健康や発達について学ぶ。精神科医療の歴史を知り、精神障害者やその家族の思いを考える機会にする。社会保健福祉の制度を知り、社会における精神障害者について知る。				
学習目標	人間の心の発達と危機についての基礎的知識を確認し、精神科医療の歴史を知ることにより精神障害者や家族の思いを考える機会にし、精神障害者を支える社会制度の概略を知ることができる。				

	学習内容	授業方法	時間	担当
授業計画	1.精神看護学とは 1）精神障害とは　（「生きにくさ」） 2）精神の健康とは	講義	3H	専任教員
	2.こころとは何か 1）意識と認知、感情、学習と行動、知能、こころの理論 2）人格と気質 3）DVD視聴	講義 視聴覚教材	5H	
	3.精神分析 1）フロイト　2)ユング 3)対人関係論　4)ほどよい母親 5）愛着理論　6)甘え 4.　心理検査	講義	3H	
	5.ストレスと健康の危機 1)ストレス理論　2)危機理論 3)トラウマ　4）レジリエンス	講義	3H	
	6.システムとは何か 1)システムとしての家族 2)人間と集団	講義 事例検討	3H	
	7.精神障害と治療に関わる社会の歴史と文化 1)処遇 2)人権 3)治療	講義 グループワーク	7H	
	8.精神障害を支える社会制度 1)法的根拠	講義 グループワーク	5H	
評価方法	筆記試験		1H	
テキスト	系統看護学講座　精神看護学[1] 精神看護の基礎　（医学書院）			
参考文献	系統看護学講座　精神看護学[2] 精神看護の展開　（医学書院）			

科　目　名	精神障害の症状と生きにくさ	単位数	1	時 間 数	30
講　師　名	専任教員	実務経験	有	履修年次	2 年
科目の概要	主な精神障害について、症状、治療を学習する。また、その症状、治療に対しての看護を学習する。それらを学習するために、人間の心について、多様な見方、考え方も学習する。				
学 習 目 標	1.「精神を病む」ことについて考えられる 2.　精神症状について理解できる 3.　主な精神疾患の症状、成因、治療、看護について理解できる				

	学習内容	授業方法	時間	担当
授 業 計 画	1.　精神を病むことと生きること 1)　疾患と病 2.　精神症状と状態論 1)　症状とは何か 2)　様々な精神症状	講義	3H	専任教員
	3.　精神障害の診断と分類 1）診断と疾病分類 2）精神科での治療	講義	2H	
	3）統合失調症 レポート※1	講義 視聴覚教材	6H	
	4）気分障害 レポート※2	講義 視聴覚教材	4H	
	5)精神作用物質使用による精神行動および行動の障害 レポート※3	講義 視聴覚障害	4H	
	6)神経症障害、ストレス関連障害および身体表現性障害、摂食障害	講義 視聴覚教材	3H	
	7)発達障害、パーソナリティ障害	講義 視聴覚教材 ｸﾞﾙｰﾌﾟ ﾜｰｸ	6H	
	4.　リエゾン精神看護 1)　定義・役割・歴史 2)　活動	講義	1H	
	終講試験（筆記試験）	試験	1H	
評 価 方 法	・各レポート 5 点　※1～3　（合計 15 点） ・終講試験 85 点			
テ キ ス ト	・系統看護学講座　精神看護学[1] 精神看護の基礎　（医学書院） ・系統看護学講座　精神看護学[2] 精神看護の展開　（医学書院）			
参 考 文 献	・統合失調症・気分障害を持つ人の生活と看護ケア　（坂本三允著　中央法規）			

科　目　名	精神障害者への看護	単位数	1	時 間 数	30
講　師　名	専任教員	実務経験	有	履修年次	2 年
科目の概要	概論で学んだ理論を活用し、精神に障害を持つ人への看護を行う為の基本的な理解の仕方や障害者の苦悩を理解した援助技術と治療的関係を学習する。「生きにくさ」をかかえ社会生活を送る人々の現状とそれを支える人々の実際と考えかたを学ぶ。				
学 習 目 標	1. 精神障害者を理解する基本的考え方がわかる 2. 患者―看護師関係の基本が理解できる 3. 精神看護の役割が理解できる				

	学習内容	授業方法	時間	担当
授 業 計 画	1. 精神看護とは 1）精神看護のケアの原則と方法	講義	2H	専任教員
	2. 患者ー看護師関係 1）患者理解の考え方 2）患者看護師関係を成立させる要素 3）患者看護師の発展過程	講義	4H	
	4）関係のアセスメント　プロセスレコード	ﾛｰﾙﾌﾟﾚｲ ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ	5H	
	3. 精神看護で活用する技法（急性期・回復期・慢性期） 1）統合失調症患者の看護 （1）急性期 （2）回復期初期 （3）社会復帰準備期 （4）社会生活維持期 （5）長期入院	講義	10H	
	2）気分障害患者の看護 （1）躁状態 （2）うつ状態	講義	4H	
	3）精神科特有の看護 安全を守る（行動制限・隔離・保護） 4）緊急事態への対応 自殺・暴力・無断離院	講義	2H	
	5）精神障害者の家族への看護 （1）患者家族の理解 （2）家族指導	講義	2H	
評 価 方 法	筆記試験		1H	
テ キ ス ト	系統看護学講座　精神看護学[2]　精神看護の展開　　（医学書院）			
参考文献	自己理解・対象理解を深めるプロセスレコード　　（長谷川雅美 著　日創研）			

科　目　名	精神障害者の事例展開	単位数	1	時 間 数	15
講　師　名	専任教員	実務経験	有	履修年次	2 年
科目の概要	既習の精神疾患の症状・治療・看護の知識を使い理解し、問題点と援助の方向性を明確にし、看護目標・具体策を立案する。その過程で、精神症状・薬物療法・入院生活が患者に及ぼす影響などこれら「身体的側面」と、患者の成育歴・生活歴・言動からの患者や家族の思いなど「心理・社会的側面」についての理解を深める。				
学 習 目 標	1.　精神障害者の特徴を理解し、看護計画が立案できる 2.　グループワークと発表会を通して、精神障害者の看護について理解ができる				

授 業 計 画	学習内容	授業方法	時間	担当
	・知識確認テスト※1 ・オレム＆アンダーウッドの「セルフケア理論」	試験 講義	1H	専任教員
	・事例の情報の解釈・分析から全体像の把握 「病像、生活像、社会像、全体像」※2	個人ワーク	4H	
	・全体像・関連図・看護目標・具体策の立案	個人ワーク グループワーク	6H	
	・グループで考えた「全体像・関連図・看護目標・具体策」の発表	発表会	3H	
	・全体像（関連図）・看護目標・具体策を再考する 「全体像・関連図・看護目標・具体策」※3	個人ワーク	1H	

評 価 方 法	※1 知識確認テスト：10 点 ※2 個人ワーク（病像・生活像・社会像・全体像）：50 点 ※3 個人ワーク（全体像・関連図・看護目標・問題点・具体策の各再考）：40 点 ※1，2，3 の合計 100 点
テ キ ス ト	
参 考 文 献	系統看護学講座　精神看護学[1] 精神看護の基礎　（医学書院） 系統看護学講座　精神看護学[2] 精神看護の展開　（医学書院）

科　目　名	看護管理と看護の活動領域	単位数	1	時 間 数	15
講　師　名	病院看護部長　病院看護師　外部講師	実務経験	有	履修年次	3 年
科目の概要	当科目には、看護管理、国際看護、災害看護の内容を含む。看護管理では組織における看護師の役割やマネジメントの基本的な知識・技術を、国際看護・災害看護においては看護の場の広がりを学ぶ。				
学 習 目 標	1. 看護管理―看護師としてのメンバーシップ、リーダーシップがわかる マネジメントの基本的な考え方がわかる チーム医療における看護師の役割がわかる 2. 国際看護―看護の国際協力の必要性がわかる 3. 災害看護―災害時における看護がわかる				

授 業 計 画	学習内容	授業方法	時間	担当
	1. 看護管理と看護の活動領域 1)看護管理 (1)看護管理とは何か (2)組織における看護師の役割 看護師のメンバーシップ、リーダーシップ (3)ケアのマネジメント (4)マネジメントに必要な知識と技術	講義 演習	6H	病院看護部長
	2)国際看護 (1)国際看護とは何か (2)国際看護の実際	講演	2H	外部講師
	3)災害看護 (1)災害看護とは何か (2)災害時における看護の実際	講義 演習	6H	病院看護師
評 価 方 法	レポート		1H	
テ キ ス ト				
参 考 文 献	黒田裕子他　2005、災害看護、メデイカ出版 小原真理子他、2007、災害看護、南山堂			

科　目　名	看護研究	単位数	1	履修年次	30
講　師　名	病院看護師　専任教員	実務経験	有	履修年次	3 年
科目の概要	本科目の履修とケーススタディの実施を通して、日々進歩する看護学の専門知識を実践に活かす方法を習得するとともに、他職種と連携して働く中で、看護の視点から論理的な意見を述べることができるようになることを目指す。				
学 習 目 標	1. 看護研究の目的と意義を理解する。 2. 研究論文を入手して読むことができる。 3. 形式に沿って研究計画書を書くことができる。 4. 研究論文を読み、クリティークした内容を説明することができる。 5. 実習で受け持った一事例の経過を一つのテーマに沿ったケーススタディにまとめ、看護実践への示唆を述べることができる。 6. 発表会で発表し、他の学生や教員とディスカッションすることができる。				

授 業 計 画	学習内容	授業方法	時間	担当
	1. 看護研究の目的と意義 2. 看護研究の種類 3. 看護研究の進め方 4. 研究における倫理的配慮 5. 文献の目的と意義 6. 文献の種類・論文の種類 7. 文献検索方法 8. 文献のクリティークと活用 9. 課題①：研究論文の検索とクリティーク 10. ケーススタディの目的と意義 11. ケーススタディの進め方 12. 研究計画書の書き方 13. 課題②：研究計画書の作成 14. 論文の構成と内容 15. 論文の書き方 16. ケーススタディのまとめ方 17. 発表の方法 18. まとめ	講義 課題レポートの作成 グループ ディスカッション 研究計画書の作成	12H	病院看護師
	19. 課題③：ケーススタディの実施と レポートの作成	個人ワーク	3H	
	20. 発表会	担当教員の指導を受け、受け持ち患者のケーススタディを行う	15H	専任教員

評 価 方 法	提出物の提出状況とケーススタディへの取り組み方およびそれらの内容 発表会への参加状況による評価（AA.A.B.C）
テ キ ス ト	南裕子、野島佐由美．看護における研究　第２版．東京，日本看護協会出版会，2017.
参 考 文 献	適宜、資料を配布します。

科　目　名	臨床応用看護論	単位数	2	時間数	45
講　師　名	全教員　病院看護師（臨床指導者）	実務経験	有	履修年次	3 年

科目の概要

この科目は 3 年次前期・後期に配し臨床への橋わたし的な役割を果たす。臨床で適応できるように、演習を多用し、総合的に判断し看護実践してゆく力をつける。看護の実践能力育成演習、医療安全シミュレーション演習、技術到達度の確認演習で構成される。

学習目標

1. 看護の実践能力育成演習—総合的な判断と技術の実践
   提示された事例に必要な看護を導き出し、実践ができる
2. 医療安全教育
   自己モニタリング能力を働かせ危険因子に気づき危険回避のための対応策を考えることができる
   自分も事故を起こす可能性があることを実感する
3. 技術の到達度の確認—客観的臨床能力試験
   客観的臨床能力試験に合格する
   自己の技術到達度が自覚できる

授業計画

学習内容	授業方法	時間	担当
1. 看護の実践能力育成演習 綜合的な判断と技術の実践 1)必要な看護を考え実践する事例 (1)周手術期にある患者で手術終了直後の看護 (2)胃腸炎で下痢をしている患児の看護 (3)高齢者の排泄の看護 (4)新生児のフィジカルアセスメントの実践 2) 課題作成 3) まとめ	講義・学習 演習 レポート	3H 9H 3H	全教員
2. 医療安全教育 1)オリエンテーション・講義 2)演習 3)振り返り	講義 演習	3H 12H	全教員
3. 技術の到達度の確認—客観的臨床能力試験 1) 客観的臨床能力試験の実施 2) 自己の技術の振り返り 3) まとめ	講義 試験 レポート 講義	5H 6H 3H 1H	全教員

評価方法

①②③の平均点で評価する
（①課題の評価（25 点×4 領域）100 点 ②出席とレポート提出　③試験（70 点）、レポート（30 点））

テキスト

系統看護学講座　専門分野　基礎看護学[33]　基礎看護技術Ⅱ　　（医学書院）

参考文献

看護技術に関する文献
小児・母性・成人、老年各領域に必要な文献